

3 各事務室報告

3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、事務分掌内規に基づき教育・研究計画書、自己点検・評価、4図書館運営の調整、図書や雑誌等の調達・受入・整理・登録・除籍、刊行物発行、図書館システム管理・運用、図書目録、統計調査、委員会等の会議運営、業務委託・電子資料等の契約、予算の要求・経理・決算、そのほかの庶務等を分掌する。理事会・学部長会等審議案件の上程、調達依頼等の学内手続き、学外関連団体との渉外業務等も担当している。

特色あるコレクションについて、城市郎文庫に関しては、中央図書館においてギャラリー展示「城市郎文庫展—出版検閲とその処分」を開催し、それに先立ち記者発表会も行った。西江雅之文庫、江波戸昭コレクションの整理については、前年度に引き続き進めた。一方、学内公募による高額資料の購入については予算の逼迫から2019年度も行わなかった。

蔵書を活用した調査研究による成果物の刊行について、2018年度に引き続き行う計画であったが、調査が思うように捗らず、2019年度の刊行は断念した。引き続き調査研究を進め、次年度以降の刊行とする予定である。

雑誌及び電子資料における価格高騰問題に関して、図書費全体予算を効率的に運用するため、デジタル資料費及び逐次刊行物費の予算上限額を設定した。今後は、この上限額までの契約に留めることになるため、更新及び新規契約については価格と利用動向のバランスを踏まえ十分検討し、取捨選択していく必要がある。また、この価格高騰問題への対応策の一つとして、オープンアクセス推進活動に取り組み、「明治大学オープンアクセス方針」を策定し、ホームページを通じて公開した。

広報面では、図書館ホームページをリニューアルした。図書館ホームページは大学内で先駆けて開設したが、その後2008年に一度リニューアルしたままとなっていた。今回のリニューアルによって、デザインを大学ホームページと同一にし、シンプルな設計とすることで大学への属性を明確にし、閲覧しやすい形となった。

このほか、当事務室では、2009年度から明治大学東京国際マンガミュージアム(仮称)設置計画に関する事務、その先行施設として米沢嘉博記念図書館と現代マンガ図書館の運営、マンガ図書館運営委員会の事務局を兼務している。2019年度は、現代マンガ図書館の移転を重点的に行った。現代マンガ図書館は、これまで早稲田鶴巻町で開館運営を行っていたが、12月15日をもって一時休館し、全資料の駿河台キャンパス内への移転を開始した。2020年度には米沢嘉博記念図書館との複合的開館を目指し、計画を推進している。

(1) 資産管理の適正化

図書館作成の図書原簿で資産計上する金額と、財務課で把握している図書費執行金額は本来一致するはずであるが、2006・2007年にかけて、図書原簿をもとに原簿データの遡及入力を行い、貸借対照表と図書館原簿データベースの金額の比較を行った結果、30億円以上の差異が生じていた。2007年の法定監査の際に、この金額の差異の問題を指摘されたが、いまだに完全な解決に至っていない。

このため、2014年度より図書館総務事務室のシステム・受入・経理・電子・マンガ図書館の各担当者及び図書館総務事務長をメンバーとして資産管理MTを編成し、法定監査による指摘事項を中心に、金額の差異の原因解明及びその対処方法について検討してきた。

その結果、2018年度単年度での図書館と財務課との資産金額についても、2016年度以降と同様に原因不明な差額は0円となった。

(2) 目録・装備業務委託

目録・装備委託業者は2010年度に切り替わり10年目を迎えた。毎月定例会を開催し、実績報告、業務効率アップ、品質維持向上等について協議している。10年間の継続業務により、スキルが安定・向上し、新刊書だけでなく、各種コレクション整理の戦力ともなっている。しかし委託業者は切り替わる可能性があり、業務を安定させていくためには職員のスキルも高くなければならない。業務委託への依存度が増す中、人材育成の課題が残る。

(3) 特色あるコレクションについて

●西江雅之文庫

2015 年度、文化人類学者の故西江雅之氏旧蔵書（約 7,500 冊）が寄贈され「西江雅之文庫」（和泉図書館収蔵）として整理を開始した。2019 年度は和図書 179 冊・洋図書 1,400 冊の整理・装備作業を行った。2020 年 4 月 1 日時点での未整理冊数は洋図書約 2,100 冊であり、2020 年度に終了予定である。

●江波戸昭コレクション

2007 年度、故江波戸昭名誉教授（元商学部教授）旧蔵書が寄贈され、その中から民族音楽に関連する図書・雑誌（約 5,000 冊）、パンフレット（約 1,000 冊）、音源・映像資料等（約 30,000 点）を「江波戸昭コレクション」（和泉図書館収蔵）として受け入れた。

2019 年度は和図書 200 冊・洋図書 186 冊の整理・装備作業を行い、図書・雑誌・パンフレットについては整理を終了した。

音源・映像資料（CD、DVD、レコード、カセットテープ、ビデオテープ等）については和泉図書館事務室の協力を得て 2018 年度より整理中であり、2020 年度も引き続き整理予定である。

●東欧諸言語図書

2017 年 3 月に岩井憲幸名誉教授（元文学部教授）より東欧諸言語図書の寄贈があり、継続して整理を行ってきた。2019 年度は 400 冊の整理・装備作業を行った（配架場所は生田保存書庫）。残り冊数は約 200 冊（2020 年 3 月 31 日現在）であり、2020 年度も引き続き整理を行う予定である。

(4) 図書受入・検収業務

電子ブックの積極的購入推進の影響もあり、冊子の受入数は減少傾向にある。会計監査・内部監査で指摘があった業務フローの改善は、現行可能な範囲で全て適用し、順調に機能している。

(5) 雑誌整理・受入業務

冊子体から電子媒体への移行や、インターネット公開されているものの受入中止などに伴い、雑誌受入数は減少傾向にある。

NII 登録所蔵一括更新（本年度は洋雑誌）ほかの業務委託によるデータ整備も順調に実施している。

(6) リポジトリ業務

2019 年度の明治大学学術成果リポジトリへの論文登録数は、紀要 565 件、博士論文 50 件、学術雑誌論文 5 件、その他 2 件であった。2019 年 12 月 5 日に「明治大学オープンアクセス方針」を公表したが、まだその後の論文（特に紀要以外の学術論文）の登録数増加につながっておらず、今後、論文の登録数増につながるための体制強化を進めていきたい。また、方針制定後、教職員向けの説明会開催を 2020 年 3 月に計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により説明会は延期となった。学内における方針の周知を図り、理解を深めてもらうため、次年度できるだけ早く説明会を開催したい。

(7) システム関連業務

Windows7 のサポート終了期限が迫っていたため、図書館業務用パソコンを Windows10 へ更新するリプレイス作業を行った。リプレイスでは、マイクロソフトや他の周辺機器・ソフトウェアの対応状況なども踏まえ、32bit 版ではなく 64bit 版を採用した。iLiswave-J や、ライブラリーカード発行機、蔵書点検用ハンディターミナル通信クレードル、IC カードリーダー、Adobe のライセンスソフトウェアなど多くの周辺機器・ドライバ・ソフトウェアの 64bit 対応もリプレイス作業の中で実施した。

大学の統合認証との連携を強化する目的で、パソコンリプレイス作業と併せて図書館業務用認証サーバー（Active Directory）を大学のアカウント管理サーバーと連携できるように更新した。これにより、異動や配属

があった際に自動で大学のアカウント管理サーバーから図書館業務用認証サーバーへデータが作成されるようになった。また、業務委託のアカウント管理の方法も改善された。

2019年5月にiLiswave-Jが完全に停止する大規模な障害が発生した。学内ネットワーク上で動作不安定になる自動貸出機によりiLiswave-Jのサーバー負荷が上昇し、大学の上位認証サーバーが一時通信不能になったことなど複数の外部条件が重なったことにより図書館サーバーが完全に応答出来なくなった。自動貸出機については、図書館サーバーとの間に中継器を設置する方法で障害対策を行った。

3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、創立120周年記念事業の一環として建設され、2001年3月16日に開館してから18年目を経過し、機器等の老朽化が目立ち、書架が狭隘となってきた。業務体制は、専任職員8名、短期嘱託等4名、業務委託スタッフ25名で運営され、センター館の機能を担っている中央図書館は、他の図書館事務室と連携して閲覧に関するとりまとめを担い、蔵書体系や図書館リテラシー教育の拡充を推進した。2020年1月22日に、開館以来延べ入館者が1,500万人に達した。

(1) 開館日数・入館者数・各種ガイダンス等

2019年度の開館予定日数は335日(2018年度334日)の予定であったが、開館日数実績は330日の開館となった。開館日数が減じた要因として、台風接近に伴う開館時間の繰り下げ(9月9日11:00開館)や臨時休館(10月12日、13日)、新型コロナウイルス感染症対応による短縮開館(3月4日～27日 平日10:30-21:00、土日祝:10:00-17:00)、や臨時休館(3月28日～30日)となったためである。近年まれにみる災害や疫病によって、短縮開館や臨時休館を余儀なく制限されることとなった。

(2) 施設・設備の保守・管理

2001年の竣工以来、目玉となった機器の老朽化が目立ち始め、自動書庫搬送機は度重なる故障や部品交換が行われた。また、書架狭隘化に伴い書架をB3に増設した。

(3) 中央図書館ギャラリー展示

2019年度は、ギャラリー展示室にて以下の展示を実施した。

- ・「図書の文化史」展：7/26～9/25
- ・城市郎文庫展—出版検閲とその処分：10/18～11/17
- ※展示関連企画 記念講演会実施 : 10/26
- ・博物館コレクションPART2-商品陳列館再興と伝統的工芸品収集- : 11/23～12/23
- ・「神田発信!大学スポーツの軌跡」: 1/24～4/12

また、ギャラリー以外にも、1FのOPACコーナー近くにおいて「4大新聞 書評委員が選ぶ『2018年この3冊』」を展示し、入館ゲート近くにおいて、「夏・電子ブック祭」と称し、Maruzen eBook Library, KinoDen(トライアル), OSO(Oxford Scholarship Online)の電子ブックの利用促進のためのPR、大学の環境展開催に伴う図書展示や、「これが令和だ」と称して本学所蔵図書の『萬葉集20巻 橘経亮校 藤原以文再校 京都:出雲寺文治郎, [文化2年(1805年)] 巻5』の和装本を展示し、その横に万葉集に関する著作を並べる等、ささやかではあるが、利用者の足を思わず止める展示を実施した。

(4) 各種イベント等の開催

図書館書評コンテストは、図書館活用奨励と優れた書評を顕彰し読書活動を推進することを目的に開催し、2018年度は第10回目の開催となった。今年度は24編の応募作品があり、11作品が受賞した。2020年2月3日に中央図書館多目的ホールで表彰式を行なった。内容は「2.9 書評コンテスト選考部会」参照。

(5) ローライブラリーと法科大学院生・法学研究科院生の利用

ローライブラリーは、法学部資料センターを改組し、法科大学院生専用図書室として 2004 年 4 月 5 日に研究棟地下 1 階に設置され、蔵書数は約 16,000 冊を持ち、法律関係の図書、雑誌、判例集を所蔵している。開室については、中央図書館の開館に準じているが、2020 年度一般選抜入試による入構制限中の開館については、運用上問題が生じたため閉館することとし、その期間中に法務研究科教員から資料の利用希望があった場合は、中央図書館 B2 カウンターにて出納によるサービスで対応する運用に変更となった。

また、法学研究科に所属する大学院生の利用については、入館して資料の閲覧のみが可能であったが、2019 年度途中に、法学研究科長からローライブラリー書庫内への立ち入り・閲覧の申し出を受け、検討した結果、許可することとなった。

3.3 和泉図書館事務室

和泉図書館の運営を中心に、図書館の諸業務に当たっている。なお、貸出カウンター、資料の配架・配送等、一部の業務は、委託して行っている。また、今年度は、業務委託先雇用の下、春学期は 3 人、秋学期は 4 人の学生が、アルバイトとして、返本業務に従事した。

(1) 開館日数・入館者数等

和泉図書館は、文系 6 学部（法、商、政治経済、文、経営、情報コミュニケーション）の 1, 2 年生、約 10,000 人の学生を、主たる利用者としており、年間の入館者数は、定期試験時期（7 月、1 月）をピークに推移している。開館時間等に変更はなく、開館日数は、前年度とほぼ同日数である。和泉図書館は、学園祭、入学試験時に休館するため、例年、他図書館に比して開館日数が少ない。

今年度は、台風により臨時休館 2 日と開館時間変更 1 日、新型コロナウイルスの感染拡大により 3 月に平日の開館時間短縮と臨時休館 4 日が生じた。

(2) 教育・研究支援

館内における恒常的な利用者支援として、レファレンスサービスと TA によるレポート作成支援を行っている。利用者教育は、春・秋学期にクラス単位での文献検索実習や単発の講座を主宰するほか、事務局として、授業科目「図書館活用法」の運営に当たるとともに、分担して講師を務めている。今年度は、各取り組みの位置づけを再確認し、対象者、ニーズに合わせて、内容、時間等の見直しを行った。

(3) 企画・展示

学生の学習活動、大学生活に資するものとすべく、テーマを検討し、ギャラリー、特設コーナーなどの運用、おすすめ本の設置を行っている。今年度は、日本近代文学文庫の新収資料を始めとして、コレクション資料の展示に学生の関心の高さが窺えた。

(4) 施設・設備

夏季休業期間に、館内すべての集合型閲覧席等の照明器具交換、業務用端末の入れ換えを行った（後者は全館共通）。館内に多数設置されたデジタルサイネージが耐用年数を迎え始めており、これに関しては、今後、早急に交換計画を策定する必要がある。

(5) 社会連携・地域貢献

本学の高大連携事業の一環として、日本学園高等学校 1 年生の館内見学、また、図書館の地域連携事業として、世田谷区立梅丘中学校、杉並区立泉南中学校の 2 校から、各 2 人の職場体験を受け入れた。杉並区図書館ネットワークにおいては、立教女学院短期大学の閉学に伴う離脱により協定の再締結が行われた。

(6) その他運営状況

書架の逼迫状況は厳しさを増してきているため、除籍作業を継続的に行うとともに、今後、増えそうな分野のための書架移動、シラバス本コーナーの廃止など配架の見直しを進めている。発注業務においては、継続購入図書の見直し、所蔵図書、雑誌については、現物調査に基づくデータの更新を行い、過去からの課題の清算を図った。江波戸コレクションについては、昨年度決定した指針に基づき、音楽関係資料の整理を進めている。

3.4 生田図書館事務室

生田図書館は、緑豊かな多摩丘陵高台にある生田キャンパスの東側中央に位置する。同キャンパスでは、理工学部・農学部の授業・実験等の教育・研究展開により、学生が長時間キャンパスに滞在しており、その教育・研究支援並びに終日滞在型キャンパスライフスタイルの快適性・利便性支援の一翼を担うのが生田図書館である。よって、明治大学図書館4館の中で最も開館日数が多くなっている。生田キャンパスにおける図書館の来歴は次のとおりである。

1951年3月、旧陸軍登戸研究所本部の木造平屋建ての一室を転用した「農学部図書室」（翌年、図書館「生田分室」に改称）に始まる。1965年3月、工学部の聖橋校舎から生田への移転に伴い、学生・教職員等の規模が拡大された。

1970年4月に「明治大学図書館生田分館」として構内の現在地に独立した一棟の建物で開館し、1988年4月の増改築竣工を機に「明治大学生田図書館」と名称変更し、現在の建物外観となる。1995年には図書館南側隣接面（農学部創立50周年記念庭園）地下に、明治大学の現4図書館共通の図書・資料の保存庫である「生田保存書庫」（地下2層）が建設されている。その後、1999年には、阪神・淡路大震災後、数年に亘り実施された全キャンパス建物の耐震検査により、構造補強（耐震壁）工事を実施した。

この様な歴史ある生田図書館は建築後50年が経ち、施設の老朽化が進んでいる。生田キャンパスでは、生田キャンパスグランドデザイン専門部会において、生田新図書館を合わせた共用教育棟として、第二中央校舎（仮称）を建設することを計画し、生田キャンパス施設計画専門部会で検討が進められている。

なお、2019年度実施の生田図書館諸活動報告は以下の(1)～(7)を、また、蔵書数、開館・貸出状況、延床面積、座席数、施設規模等については項番号7各種データ、その他資料をご参照願いたい。

(1) 施設工事・環境整備

地下2階書庫設置の電動集密書架のうち、設置から30年以上が経過したもの的一部について、昨年度から引き続き、電気制御部品の更新工事を実施した。これにより対象書架のうち約3分の2について更新が完了した。今後も永続的な安全稼働のため、引き続き当更新作業を進める予定である。また、図書館全体の電動集密書架スポット点検の一環として、生田図書館は地下2階書庫の書架点検を実施した（更新済書架を除く）。

また、生田保存書庫資料の保存対策の一環として、年度末に地下2階保存書庫の一部のエリアを対象に除菌作業を実施した。なお、館内害虫防除作業については、2019年度から法人部署主管により実施されることになった。

(2) 展示ギャラリーの運用

2019年度は9件（学部・研究科等企画6件、図書館企画2件、博物館企画1件）の企画展示を開催した。内容は学部生・大学院生の成果作品発表、教員・研究室の研究成果発表、博物館所蔵展示等。詳細は「4 主要行事・イベント 生田図書館ギャラリー「Gallery ZERO」」を参照。

(3) ガイダンス及び図書館リテラシー教育の充実

4月1日から4月9日まで行われた理工学部、農学部の新入生指導週間行事日程の中で、理工学部2回、農学部3回の新入生図書館利用ガイダンスを実施し、4月5日には新任教員図書館利用ガイダンスを実施した。新入生歓迎行事の一環として、4月10日から4月25日まで館内で行ったスタンプラリーには計144名が参

加した。

次に年間を通じてのリテラシー教育活動として、20 回のゼミガイダンスに計 237 名が参加した。

また、2019 年度も農学部からの依頼により、食料環境政策学科の初年次教育科目「基礎ゼミ」(受講者 172 名)、及び農学科の「農学基礎実験」(受講者 139 名)にそれぞれ図書館職員 4 名を派遣し、「図書館利用法と新聞記事検索演習」、「図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」の 2 コマ計 12 回の出前講義を行った。

この他、外部講師を招いて「SciFinder」「Web of Science」「J-Dream III」「英語論文投稿講座」の講習会を行い、計 140 名の参加があり、図書館職員が講師となり実施した「論文の探し方講座」には、計 79 名の参加があった。

さらに生田就職キャリア支援事務室と連携し、「スマホ就活情報収集講座」を 2020 年 1 月 10 日から 1 月 15 日までに 5 回開催し、計 807 名の参加を得た。

(4) 学習用図書選書

生田図書館運営の柱である「読書支援」「利用者目線」を反映させた選書を行った。

新聞書評欄や書店・出版社のホームページ、日々の話題等から情報を収集し、できるだけ話題作を購入した。また、電子ブックの試読で生田キャンパスの学生の利用が多かったものについては積極的に購入した。

(5) 特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を新着図書コーナー隣の書架に配架し、利用者に読書に親しんでもらう機会とした。2019 年度は以下の 9 企画を実施した。

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1 カラフルな本 | 4/1 (月) ~ 5/9 (木) |
| 2 動物探究 | 5/10 (金) ~ 6/16 (日) |
| 3 大学生生活の意味はどこにあるのか? | 6/17 (月) ~ 7/16 (火) |
| 4 緑陰図書: 教員おすすめ本 | 7/19 (金) ~ 9/30 (月) |
| 5 夏の読書 | 7/19 (金) ~ 9/30 (月) |
| 6 Classic の魅力 | 10/1 (火) ~ 11/8 (金) |
| 7 なぜ・・・? | 11/8 (金) ~ 12/12 (木) |
| 8 庭園 | 12/13 (金) ~ 2020 年 1/30 (木) |
| 9 スタッフおすすめ本 | 1/31 (金) ~ 3/31 (火) |

(6) 読書のススメ (本への誘い) コーナーの企画

新聞見出しに頻出する記事や WEB での話題から生田図書館の蔵書をピックアップし、学生の読書へのきっかけを提供した。2019 年度は以下の 15 企画を実施した。

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 本からみるご当地のあれこれ | 4/7 (日) ~ 4/26 (金) |
| 2 BOOK OF THE 平成 | 4/26 (金) ~ 5/24 (金) |
| 3 日本-フィンランド外交関係樹立 100 周年 | 5/24 (金) ~ 6/14 (金) |
| 4 老後、2000 万円必要? | 6/14 (金) ~ 6/22 (金) |
| 5 参院選 ー選挙や政治について考えよう | 7/5 (金) ~ 7/26 (金) |
| 6 絶景 | 7/26 (金) ~ 8/30 (金) |
| 7 異常気象 | 8/30 (金) ~ 9/27 (金) |
| 8 和食 | 9/27 (金) ~ 10/18 (金) |
| 9 日本のものづくり | 10/18 (金) ~ 11/15 (金) |
| 10 現代の貧困 | 11/15 (金) ~ 12/6 (金) |
| 11 神社とお寺 どう違う? | 12/6 (金) ~ 2020 年 1/10 (金) |
| 12 Photo Essays | 1/10 (金) ~ 1/31 (金) |
| 13 対談 | 1/31 (金) ~ 2/21 (金) |

14 未来予想図	2/21 (金) ～ 3/13 (金)
15 Library	3/13 (金) ～ 4/3 (土)
特設コーナー (特集テーマ)	
1 本屋大賞	4/5 (金) ～ 5/25 (土)
2 不朽の名作	5/26 (日) ～ 7/12 (金)
3 直木賞・芥川賞	7/13 (土) ～ 9/20 (金)
4 猫	9/23 (月) ～ 11/16 (土)
5 今年のトレンドはこれ!	11/17 (日) ～ 2020年 1/10 (金)
6 直木賞・芥川賞	1/13 (月) ～ 3/31 (水)

(7) 川崎市図書館との相互協力

2014年1月に川崎市立多摩図書館長の呼びかけで始まった「多摩区3大学(明治大学、専修大学、日本女子大学)図書館・川崎市立多摩図書館連携状況連絡会議」は、2019年度は次の日程で1回開催され、各図書館の近況並びに地域連携の現状が披露された。

第1回 7月26日(金) 会場: 専修大学図書館

また、2019年度もギャラリー展示パンフレットを川崎市立各図書館で配布する等の協力を得て、生田図書館の地域連携は成果を伴いながら定着してきている。図書館を利用する川崎市民が、ギャラリー見学やコスパへ参加することも珍しくない。

2015年度からの統計推移は以下のとおりである。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
LC作成数	67名	49名	45名	78名	60名
入館者数	5,240名	5,032名	3,375名	3,781名	4,797名
貸出冊数	2,534冊	2,147冊	2,193冊	2,115冊	2,100冊

3.5 中野図書館報告

2019年度、中野図書館は開館から7年目を迎えた。国際日本学部、総合数理学部と国際日本学研究科、先端数理科学研究科の利用者の学習・研究の支援を行っている。明治大学図書館の中では一番小さな図書館であるが、他の図書館にはないマンガ・アニメ関連の蔵書や国内外の写真集コレクションなど揃えている。館内はメタリックを基調とした先端的なイメージとなっており、キャンパス内で静かに落ち着いて学習できる場所として定着している。閲覧席から見える外の景色は四季折々に美しく、勉強の合間に心を和ませてくれる。

(1) 開館日数・入館者数・貸出冊数など

2019年度の開館日数は342日(2018年度は337日)であった。夏期休暇中の日曜日、全学部統一入試の当日および前日を休館日としている。

入館者数は111,216人(2018年度117,621人)であり、一日、平均325人であった。定期試験期間には閲覧席がほぼ満席になるなど数多くの教員・学生等に利用されている。また、近隣に付属校があることから付属校生の利用も多くなっている。貸出冊数は34,576冊(2018年度は35,017冊)であった。

(2) 蔵書について

2020年3月31日現在の中野図書館蔵書数は54,772冊(簿外図書も含む)であった。(2018年度は52,788冊)。学生・教員からの購入希望図書と並んで本屋大賞や文学賞受賞作品、新聞書評本、電子ブック等を購入している。

ここ数年、収容可能冊数を超える蔵書数となっており積極的に除籍等を行っている。書架狭隘化の対策とし

て、2016 年から行っている生田保存書庫への移転は、利用頻度の少ない図書を抽出し 1,338 冊の移転も実施した。

(3) リテラシー教育と読書推進・イベント

図書館リテラシー教育として行っている「図書館ガイダンス」の実施件数は 23 件であった。実習パソコンの関係で図書館内以外に教室やメディア教室でも実施した。国際日本学部 EnglishTrack 向けに英語でのガイダンスも行った。

読書推進活動としては、図書館スタッフや学生、職場体験中学生が作成する「おすすめ本棚」の展示（計 17 回）、新聞書評図書のミニ展示、書評や図書館からのお知らせを記載した「図書たより」を 35 号から 42 号まで発行した。イベントについては、春・秋学期で実施しているクイズラリーや「としょかん福ぶくろ」「令和元年！あなたの推し本教えてください！」など楽しく参加できるイベントも開催した。これらについては、SNS による広報を随時、発信した。